

特集 | 型取り材料 あれな~~に??

アルジネート印象材

歯科医院で型取りをする時のピンク(当院では)の材料はアルジネート印象材といわれるもので、コンブなど海藻に含まれるアルギン酸ナトリウム、硫酸カルシウム(石膏)、第3リン酸ナトリウムケイソウ土の粉末からできています。

このアルジネート印象材(粉末)に水を加え、20~30秒間手早く練ります。練ると粘土状になり、歯型のトレーに盛り、口腔内の型取りをします。練り始めてから約2~3分で硬化します。状況によって、アルジネートの硬さ、温度を調節し、硬化時間を短くしたり長くしたり工夫しています。

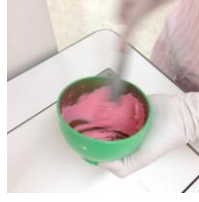
アルジネート印象材に加えて、さらに精密さが要求される部分には寒天印象材を使います。これも海藻から作られたものですが、必要な部分(削った歯など)に追加してアルジネートと一緒に型取りします。



①アルジネート印象材に水を加えます。



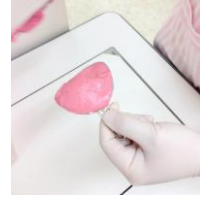
②粉と水を混ぜます。



③20~30秒間手早く練ります。



④歯型のトレーに盛ります。



⑤これを患者様の口腔内に入れ、歯型をとります。



⑥きれいな歯型がとれました!

シリコーン印象材

当院で使用している型取り材料はもう1種類あります。

アルジネート印象材よりも更に精密な歯型が取れるシリコーン印象材です。

シリコーン印象材はプラスチックの仲間で、ケイ石(SiO_2)を原料に造られたものです。

当院で使用するものは、シリコーンとポリエーテルを均一に混ぜ合わせ反応させ、細かい部分の型を高い精度で取れるものになっています。

これは硬さにより色々な種類がありますが、主に全体の型を取るハードタイプ(写真ではモスグリーン)と、より精密さが要求される部分に使うソフトタイプ(写真ではベージュ色)に分かれます。



①歯型のトレーにシリコーン印象材を盛ります。



②これを患者様の口腔内に入れ、歯型を取ります。



③精密な歯型が取れました!

こんな方はお声かけ下さい!

- ・嘔吐反射がある方
- ・鼻呼吸が出来ない方
- ・妊婦さんで特につわりのある方
- ・型取りが苦手な方
- ・二日酔いの方

このような場合はスタッフがアルジネート印象材を練る時に、早く硬化するよう調節します。

新年のご挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。山本美智子です。
お健やかに、良いお年をお迎えになったことと、お慶び申し上げます。
皆様方のご多幸を、心よりお祈りしております。

お陰様で私共の城南歯科医院も、皆元気に新年を迎え、
張り切って診療をスタートさせました。
年の初めに当たり、今年の抱負を掲げたいと思います。

1. 患者様の立場に立って、できるだけご希望に添える診療をする。
2. 診療の質を上げるために、スタッフ一同さらに研鑽を積む。
3. 院内を快適にするために、皆で知恵を絞る。

他にもいろいろ考えていますが、具体的に少しずつ改善しています。例えば口腔内規格写真のためのパソコンの買い替えや、診療をより詳しくご説明するための iPad の活用、歯科医師・衛生士・受付等のセミナーや勉強会の参加予定、待合室への給水機の導入などなど。最終的には患者様はもちろん、スタッフも含めたみんなが「幸せ」になるための努力をしていきたいと思っています。さらに大きなことを言えば、地域の「幸せ」、国の「幸せ」、世界の「幸せ」につながればいいなと考えております。

少し恥ずかしいのですが、私のミッション(使命)は、「歯科医療を通じて、世界の人々の幸せに貢献する」ということです。ですからまずは当院に縁あって来て下さった方々には、徹底的に「幸せ」になっていただきたいのです。そのために、私どもの持てる力をすべて結集させます。

「歯の健康」、「お口の健康」が全身の健康につながり心の健康にも寄与すると考えられます。

皆様方の「健康と美しさと幸せを第一に考え」、今年も城南歯科医院は頑張ります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



理事長コラム(十二)

「癌克服の走る医学部教授」が 放映されました

新年明けましておめでとうございます。今年も折々の出来事や感じたことを本コラムで紹介していきたいと思っています。

さて昨年は、夫婦同時の随筆出版、女性週刊誌での私の半生紹介および癌体験に関する全国巡回講演などビッグ・イヤーとなりましたが、その締めめの出来事は十一月二十三日のテレビ放映でした。

BS11の午後六時からの番組ONZEで右記のタイトルで二十五分にわたり放映されました。第一部では、三度の大腸癌手術という闘病を経てオストメイトになったことをインタビュー形式で答え、「今生かされている」という感謝の思いから「患者に寄り添う」という医療の原点に立ち返っていった経緯をお話ししました。第二部では私の闘病を支えた妻に焦点を当て、入院時の全夜病室泊、退院後の食事の全面改定を実施しながら、希望が持

てる未来像の思いから東京での歯科医院開業を提案・実施したことが紹介されました。そして最後の第三部では実際に皇居での市民マラソンに参加しているところが紹介され、完走後の着替えシーンで「親からもらった身体をこんなに傷つけてしまいました。長生きするのが一番親孝行と思って走り続けます」とのコメントで結ばれました。

立派な出来栄えに満足であり、この放映に関する取材、撮影、編集およびナレーションの一人四役を果たされたモデレート社の檜垣氏に敬意と感謝の意を表します。プロフェッショナルの仕事という面からも大いに啓発されました。

